

令和元年度第2回伊勢原市教科用図書採択検討委員会

令和元年7月10日（水）
伊勢原市民文化会館展示室
午前9時 開会

- 事務局・令和元年度第2回伊勢原市教科用図書採択検討委員会を開会する。
- 委員長・挨拶
- 事務局・ただいま、検討委員全員の出席をいただいている。伊勢原市教科用図書検討委員会の設置要綱第6条2項に基づき、過半数の出席をいただいているので、会議は成立する。
 - ・資料の確認を行う。本日の次第、「令和2年度伊勢原市立小中学校使用教科用図書採択方針」、「令和2年度使用小中学校教科用図書発行者発行数一覧」、「学習指導要領」である。
 - ・「中地区小学校用教科用図書調査研究の結果」、「神奈川県教科用図書調査研究の結果」、「中学校用教科用図書調査研究の結果」は事前にお渡ししているものである。
 - ・教科書、編集趣意書、平成26年度見本の時点からの変更箇所も置かせていただいている。
 - ・第1回の検討委員会では、「伊勢原市教科用図書採択検討委員会設置要綱」、「教科書の定義」、「伊勢原市教科用図書採択の流れ」、「神奈川県令和2年度義務教育小学校使用教科用図書採択方針」について説明した。
 - ・本日の資料「令和2年度伊勢原市立小中学校使用教科用図書採択方針」について、再度、確認をする。（資料読み上げ）
 - ・学習指導要領に、各教科の目標、内容等がある。
 - ・以上の点を踏まえ、本日の検討協議を進めていただきたい。
 - ・この検討委員会は静ひつな環境のもとで採択事務を行うため非公開となっているが、公式な会議のため、記録をとり、会議録をホームページで公表することを御承知おきいただきたい。また、情報公開の請求があった場合には、これに応じることも前回と同様である。
 - ・教育委員会では採択に当たり、本日の検討委員会での検討協議の内容を参考にするため、教育委員が委員長の許可を得て出席しているので、御承知おきいただきたい。
 - ・では、進行は、第6条第1項に基づきまして委員長に議長をお願いする。
- 議長・委員の皆様には、本検討委員会の趣旨を御理解いただき、適正かつ公正な採択のための検討が行われるよう御協力をお願いする。
 - ・本日の進行について、事務局より説明をお願いする。
- 事務局・まず初めに、令和2年度に使用する中学校「特別の教科 道徳」を除

く全種目について検討する。中学校「特別の教科 道徳」以外の教科書は平成28年度から令和元年度まで同じ教科書を使用している。令和2年度からは採択替えとなるが、令和3年度には新学習指導要領の全面実施に伴い、教科書が新しくなる。そのため、今年度採択される教科書は令和2年度1年間のみの使用となる。また、平成30年度の検定において新たに合格した教科用図書がなかったため、基本的には前回の検定合格図書の中から採択を行うことになる。よって、平成27年度の調査結果を活用し、4年間の使用実績も含めて検討していただく。

・そこで、初めに事務局より、平成27年度の調査結果について報告し、その後、検討委員の皆様にご意見をいただく。

・次に、令和2年度から小学校で使用する全ての教科書について検討をお願いする。

・まず調査員が、伊勢原市、平塚市、秦野市、大磯町、二宮町の共同調査研究の結果に基づき報告する。その後、報告についての質疑の時間をとり、終了した時点で調査員は退室する。調査員退席後、検討に入っていただく。必要が生じた場合には、調査員に再度入っていただき、質問することも可能である。

・本検討委員会は各検討委員から十分に意見を出して検討していただく場であり、教科用図書を1種類に絞るという性格のものではない。結果的にはある発行者、もしくは幾つかの発行者へ意見が多くなるということは考えられる。検討委員会としての方向性が幾分か見えたところで検討を終了する。

○議長・採択については、教育委員会が「令和2年度伊勢原市立小中学校使用教科用図書採択方針」に基づき採択を行う。そのために必要な事項を調査研究することが本検討委員会の役目である。伊勢原市の子どもたちにとってふさわしい教科書、使いやすい教科書を検討していただきたい。

・まず中学校「特別な教科 道徳」を除く全種目の検討から始める。事務局より、平成27年度の調査結果について報告をお願いする。

○事務局・報告（「中学校用教科用図書調査研究の結果（平成28、29、30、31年度用）平成27年7月 平塚地区・秦野地区・伊勢原地区・大磯地区、二宮地区」のとおり）

【質疑】 なし

【検討】

○議長・皆様から御意見をいただき、検討を進める。

○委員・国語に関し、どの教科書においても見通しや振り返りについて大切にされるように工夫されていたと思う。現在使用している光村図書出版は、教材が生徒にとって読みやすく、「言葉の力」というものが表にまとめであり、子どもたちの理解に役立つ。主体的で対話的で深い学びということについても大変工夫されている。今までどおり光村図書出版で特に問題はない。

・書写については、これまでどおり、東京書籍が使いやすいと感じている。

○委員・社会と地図の教科書を見たが、どの教科書も大変工夫を凝らしたものになっていた。地理に関しては、現在、帝国書院を使用しているが、章末のまとめも多面的に振り返ることができるようなものになっている。

・歴史については帝国書院で、時代名と見出しのガイドが巻頭の年表とつながっていて使いやすいと思う。

・公民は、東京書籍を使用しているが、演習形式の学習が教科書内に設定されているのがよいと思う。

・地図は、帝国書院は学習課題のコーナーが設けられていて、地図を通して社会の課題が見つけれられるように工夫されている点がよい。

○委員・数学と理科について見たが、どの教科書も既習事項を確認して見通しを持って学習できるように示されていた。数学は東京書籍を使っているが、練習問題が多く設定されていて反復練習ができるようになっていると感じた。

・理科は大日本図書を使用しているが、神奈川県に関する資料が多く取り上げられているので、生徒の関心を高める工夫の一つとなっていると感じた。

○委員・技能教科の教科書については、音楽、保健体育、美術、技術家庭、それぞれどの教科書もよく工夫されていると思う。現在使っている教科書についても工夫がしてあって使いやすく、学習の見通しが立てやすいような工夫がされている。また、学び合いの場面が設定されており、今使っている教科書がどれもよいと思った。

○委員・英語は、どの発行者も小学校と中学校の接続が配慮されて、工夫されている。特に今使っている三省堂は、スモールステップを踏んで基礎の定着から活用まで、無理なく4技能が身につくような構成をされているというところがいい。

○委員・現在使用している教科書は、どの種目をとってみても伊勢原市の生徒の現状によく合って、よく工夫されている教科書が選ばれていると感じている。現在使用している教科書を見たところ、どの種目についても特に大きな問題となるような表記等はなかったと思う。また、教科書そのものが変わっていないので、これまで積み上げてきている教材研究を生かすことができるという点からも、同じ教科書を使って学習できることが望ましいと考える。

○委員・現在使っている教科書でよい。

○議長・ほかに意見はあるか。

《なし》

○議長・なければ、中学校の教科用図書についての検討を終了する。

・全体の意見として、どの種目の教科書についても現在使われている教科用図書に問題はなく、同じ発行者のものを引き続き使うのが、生徒に

とってもよいということでもとめたい。

○議長・次に小学校の教科書の検討に入る。

・まず、国語である。国語の教科書は4者から発行されている。調査員に報告をお願いします。

国 語

○調査員・報告（「小学校用教科用図書採択調査研究の結果（令和2、3、4、5年度用）令和元年6月 平塚地区・秦野地区・伊勢原地区・大磯地区・二宮地区」のとおり）

【質疑】

○委員・印象に残った工夫はあるか。

○調査員・光村図書出版で、主体的・対話的で深い学びを実現するための学習ページが、児童にとっても、教師にとっても使いやすい工夫であると思う。

○委員・読書活動について、どのような取り上げられ方をしているか。

○調査員・どの発行者もたくさんの紹介図書がある。また、図書館教材として、図書館の利用について特化された教材がどの発行者にもあった。

○議長・ほかに質問はあるか。

《なし》

（調査員退室）

【検討】

○議長・それでは、検討を進める。御意見ををお願いします。

○委員・読書指導が気になった。各者とも読書活動の充実を図るための題材が充実しており、工夫されていると感じた。学校図書はブックトークやアニメーションによる読書活動の単元を取り入れているし、東京書籍では、さまざまな分野の著名人が読書のよさを伝えている。また、教育出版、光村図書出版は、本の紹介を題名や表紙だけでなく簡単な文章をつけて読書の関心が高まるような工夫がされていると感じた。

○委員・私は、書くところから教科書を見たが、学校図書、教育出版、光村図書出版では前の学年の漢字を使いながら、絵を見て文章を書くページというのが設けられている。その中で、光村図書は図書館の人になったつもりで書こう、学級日誌に記録するように書きましようといったような、具体的な設定がなされていた。

・東京書籍は、新聞やノートに書かれた言葉を漢字に直しながら練習できるようにになっていた。漢字の学習では、実際の文章や表記の中で言葉として活用し、言葉の使い方をわかった上で繰り返し学習をさせることも効果的であるかと思う。

○委員・私は伝統的な言語文化について、光村図書出版の季節の言葉という中で、短歌・俳句が紹介されていて、こういった紹介があると年間を通して親しんでいけるということを感じた。

(ア) ○委員・私は、情報活用能力の育成の点に関してお話ししたい。ま

ず学校図書では、思考を整理する方法が具体例とともに示されていたと思う。あと、東京書籍に関しては、付箋カードや情報カード等、情報の扱い方が具体的に示されていたと思う。考えるための手段として効果的である。

・また、光村図書出版では、学校での日常の問題を例にして問題解決のための情報整理の仕方を図解してあってわかりやすいと感じた。

○委員・言語活動の充実ということ 키워ドと考て教科書を見た。各者工夫がされているが、光村図書出版は見開きで、読む単元で見通しを持った学習が進められるということ、進行の仕方とか、記録の仕方が例示されていて、より具体的に学習が進めやすいというイメージが持てた。

・また、東京書籍などは国語ノートのつくり方ということを取り上げていて、ノートというのはまとめたりとか、振り返ったりするのに大事な部分であるが、その面で言語活動の根本的な部分をしっかり押さえてあるのが特徴的かと思う。

○委員・今まで使ってきた光村図書出版については、物語教材も多くて、命の大切さや生命の尊厳について考えさせるすぐれた教材が多いと思う。教科書展示会に参加した教員の中でもそういう教材が多いという声が上がっていた。

○委員・東京書籍と教育出版は、低学年に関して絵とか写真を多く使っていて、国語に親しみやすい、入りやすいというイメージを受けた。3年生以降はどの発行者も、取り上げている文章はそれほど相違はないというイメージである。

○議長・ほかに意見はあるか。

《なし》

○議長・なければ国語の検討を終了する。

・各者それぞれに特徴や、よさがあったかと思う。そのことについて報告をさせていただくがよろしいか。

(異議なし)

書 写

○調査員・報告（「小学校用教科用図書採択調査研究の結果（令和2、3、4、5年度用）令和元年6月 平塚地区・秦野地区・伊勢原地区・大磯地区・二宮地区」のとおり）

【質疑】

○委員・小学校ではどのように書写の授業を行っているのか。また、その際にどんなふうに教科書を使っているのか。

○調査員・3年生以上では毛筆の学習があり、最初に試し書きをするなどしてめあてを確認し、気をつけるところなどを確認した後に毛筆で練習をしていき、最後に、硬筆文字で日常生活に生かすような形の学習になっている。今の教科書は書き込めるようになっているし、お手本としても

使っている。ノートやお手本のような形で日常的に使っている。

- 委員・通常、書写は国語の教科が中心でやると思うが、ほかの教科にはどのような形で生かされているか。
- 調査員・例えば教育出版は全学年に手紙の書き方などが出ており、あとは、社会科や理科で、調べた学習などをまとめるようなポスターや新聞づくりなどが各者載っている。
- 議長・ほかに質問はあるか。

《なし》

(調査員退室)

【検討】

- 議長・それでは、検討を進める。御意見を願います。
- 委員・どの発行者においても新学習指導要領に基づいて学習の進め方等が子どもたちにわかるように最初に示されている。また、従来私たちがやってきたように、まず清書を見て一生懸命書いて練習をするというのではなく、書いてみて、その中から自分で課題を見つけて、課題を解決するような練習をして、最後にまとめがきて、もう1回書いてみるという流れになっていると感じた。
 - ・その示し方がわかりやすいと思ったのが東京書籍、それから教育出版、光村図書出版、日本文教出版である。また、どれも写真やイラストや文で、最初のほうのページで見やすく示されているところが子どもたちにとっても学習しやすいと感じた。
- 委員・中学校1年生でも鉛筆の書き方はすごく気になっている。全ての発行者において、1年生の最初のページに鉛筆の書き方、持ち方というのが載っていた。それぞれに工夫されているが東京書籍と光村図書出版、そして日本文教出版は鉛筆を持った手と紙を押さえるイラストがきちんと載っているので、子どもにとってもわかりやすいつくりになっていると感じた。
- 委員・鉛筆の持ち方は、正しく持った後に、それをいかに動かすかが大切である。運筆または、筆運びというが、それを効果的に学ぶのに水筆を使うということが各教科書には書かれていた。その水書用紙が附属されているところとされていないところがあり、教育出版と光村図書出版は1年の巻末に、それから、東京書籍と日本文教出版は1・2年の巻末にあった。水筆を使って水書することで、はらったりとめたりするという指導が子どもたちも実感でき、何度も書き直せるという安心感もあり、工夫されている印象を受けた。
- 委員・毛筆のところを見たが、東京書籍と学校図書、教育出版、光村図書出版などでは穂先の向きが絵や図でわかりやすく示されていて工夫があると思う。また、どの発行者も朱墨で文字を載せてあるので、筆の動きがどれもわかりやすい。
- 委員・日常生活やほかの学習活動との関連について、各者とも工夫されてい

て、はがきの宛名やお礼状の書き方、横書きのノートの書き方など、多彩な内容が織り込まれていた。

・高学年では目的に応じて使用する筆記具を選び、その特長を生かして書くことというのが学習指導要領の目標とされていることから、各発行者ともいろいろな筆記具を、その特徴が目で見えてわかるようなページが工夫されていた。

・光村図書出版、教育出版では、筆記具を選び、これまでに学習したことを生かして書くという学習の流れが示されていて、ほかの教科等との結びつきができると思う。

○委員・中学校では、国語と書写で発行者が違っているが、小学校は、そういったところで支障はないのか。

○委員・国語の教科書と書写の教科書の発行者が違っても、特段大きな問題はない。ただ、自分の経験を踏まえて言わせていただくと、同じ発行者だと、国語の教科書で習った漢字が書写で出てきて、書き方を改めて正しく書くという、連動する部分があるので、どちらかという、同じ発行者だと使いやすい部分はあると思う。

○委員・東京書籍はページの左端にインデックスみたいなものがあって、いいと思う。水書用紙は、運筆を学ぶのによい。

○議長・ほかに意見はあるか。

《なし》

○議長・なければ書写の検討を終了する。

・各者それぞれに特徴や、よさがあったかと思う。そのことについて報告をさせていただくがよろしいか。

(異議なし)

社 会

○調査員・報告（「小学校用教科用図書採択調査研究の結果（令和2、3、4、5年度用）令和元年6月 平塚地区・秦野地区・伊勢原地区・大磯地区・二宮地区」のとおり）

【質疑】

○委員・教科書は授業の中でどんなふうに使っているか。

○調査員・中学年で学習することは伊勢原市内のことや神奈川県内のことが多いので、まず、教科書で流れを確認したり、キーワードを確認したりするために使うことが多い。そのほかに、伊勢原で作っている副教材を地域の教材として使っている。

○委員・神奈川県内のことが取り上げられているということは、子どもたちにメリットが何かあるか。

○調査員・どんなこともわかるように教えるのが基本だが、自分ごととして捉えるという意味では、神奈川県内のことが取り上げられていると、聞いたことがある地名や行事があり、自分のこととして考えられるようになって

てよい。

○議長・ほかに質問はあるか。

《なし》

(調査員退室)

【検討】

○議長・それでは、検討を進める。御意見を願います。

○委員・3・4年では自分の身近な地域とか市の様子について学習をしていくということだが、教科書の中にはいろいろな県や市が取り上げられているが、実際に教科書をどのように使って学習させているのか。

○事務局・3・4年生だと、自分の地域を調べようということで、校外に出て、実際に自分たちで出向いて学習するという機会がとて多くなる。出向くのと同時に、自分で調べ学習を進めていくということも多くなっていくので、教科書にまとめ方とか、学習の進め方ということも載っている。そういった学習の指針として使っていくことと、自分の地域との違いを考えながら学習を進めていくことに主に使っていく。

○委員・3年生の市の移り変わりというところの題材については、教育出版と東京書籍は、昔と現在を比較する地図とか写真が比較的多いと感じた。日本文教出版のほうは、もっと細かく、道具や昔のまちなみの移り変わりを表現していて、現代の生活と比較して考えられていると思う。

・4年生の自然災害に備えるまちづくりというところでは、教育出版では、関係機関の協力などから、災害から人々を守る活動ということで捉えていた。その働きがわかりやすくイラストで表現されている。東京書籍では、学習内容のキーワードとなる言葉が掲載されていて、地震から暮らしを守る取組とか、調べてきた内容を、作業を通して整理できるような構成になっていた。

○委員・3・4年生は、地域のことを身近なところから広げていく。まず自分の地域、住んでいる市、町から、そして県に広がっている。高学年になると今度は全国的な視野だとか世界的な視野で物事を見ていくという力をつけいくと思う。そういった意味で、今回、特に高学年に注目して見たが、食料生産について取り上げているということが一つ特徴かなと感じている。教育出版は、単元の終わりに話し合い活動や、まとめの段階の発表活動について取り上げていて、こうやってまとめていくということや、相手の考え方やものの見方ということについて、理解を深めていくような工夫がされていたと思う。

・東京書籍では、食料品の輸入量の変化をグラフであらわして、子どもたちに視覚的に訴えていたり、食の安全について頑張っておられる方の話が出ていたりして、子どもたちに身近なものとして捉えるような、そんな工夫がされていたと思う。

・日本文教出版では、食料廃棄の問題や、生産と消費ということについて、生産者と消費者のそれぞれの立場から考えられるような視点を持つ

ていた内容だったと思う。

- 委員・3者ともよく工夫をされて、学習がしやすいようになっている。その中でも、教育出版は、巻頭のところに前の学年を振り返ろうや、あるいは社会科の見方や考え方というコラムが載せられていて、子どもたちにとって理解がしやすい内容になっていると感じた。また、学習の進め方ということが提示されていて、各単元等の学習の進め方に沿って学習内容が展開されているという意味では、子どもたちが社会科というものに関しての学びがしやすい方向性でまとめられていると思う。
- 委員・各者とも課題をあらわす問いかけが載せられており、学習の狙いがしっかり示されている。
 - ・教育出版や東京書籍では学習の流れが明確に示されていて、見通しが持ちやすくなるよう配慮されていたと思う。また、教育出版の3・4年の教科書では、課題とともにそれに基づく活動例が順序立てて示されていて、子どもにとっては学習活動の見通しが持ちやすい構成になっていると感じた。
- 委員・3者とも写真を多く使って、3者とも登場人物がいて、模擬的にやっていくというのがわかりやすい。教育出版には神奈川のことが多く載っていたイメージがある。
- 議長・ほかに意見はあるか。
《なし》
- 議長・なければ社会の検討を終了する。
 - ・各者それぞれに特徴や、よさがあったかと思う。そのことについて報告をさせていただくがよろしいか。

(異議なし)

地 図

- 調査員・報告（「小学校用教科用図書採択調査研究の結果（令和2、3、4、5年度用）令和元年6月 平塚地区・秦野地区・伊勢原地区・大磯地区・二宮地区」のとおり）

【質疑】

- 委員・工夫として、各者印象に残った点があったら教えていただきたい。
- 調査員・東京書籍は、大きな写真の掲載が多いと思った。帝国書院は、工夫としては、「地図マスターへの道」が、3年生へと1学年下がった児童が扱うにあたって、地図への苦手意識がかなり薄れるのではないかと個人的に感じた。
- 委員・地図帳を、これから3年生も使うということだが、これまではどのような使い方をされてきたか。
- 調査員・4年生では、都道府県の位置を知ることや、日本国内の各地域の大体の場所を知ること、県の形を知ることなどの学習をしてきた。高学年では、地球儀の使い方や、日本の自然の様子、地形などの学習に役立てて

きた。小学校では、総合的な学習の時間でもかなり使っていて、地図帳で社会科と連動させて総合的な学習の時間に生かすとか、ほかの教科で学んだものを地図帳で調べるとか、時事的な問題で、例えばこの火山が噴火したけれども、どこにあるかなとか、クラス担任の工夫でいろいろ利用されている。

○議長・ほかに質問はあるか。

《なし》

(調査員退室)

【検討】

○議長・それでは地図の検討を進める。御意見を願います。

○委員・学習を支える大切なものとしてどんなものが使われているかという資料としての質だったり、過去をさかのぼれるかという資料の量だったりもするが、小学生にとっては見やすいというのがすごく大事なかなとっていて、両者ともA4判で見開きで、あるいは折り込みがあったり、地図そのものを大きくする工夫がある。地図そのものの色味というか色合いが2者で違い、特徴があるかなと見てる。

・帝国書院は色が薄いが高低差がはっきりわかるような色合いになっていて、書かれている文字も見やすいという印象を受けた。ぱっと見たときに、特徴的に高いところ、低いところがわかりやすかったかと思う。

・東京書籍は、興味関心を引くように吹き出しや、イラストが多く設けられていて、特徴的だと思った。どちらもいろいろな工夫がされているが、見やすさという部分は大事なポイントかと思う。

○委員・2者とも工夫されている。子どもが手にとりやすいサイズになっていることや表やグラフなども載せられていて非常に充実していると感じた。

・帝国書院では、山の高さや川の長さを見開きですぐに比べられるように工夫されていてわかりやすい。東京書籍は、学年に応じて対応できるようにという配慮だと思うが、歴史的な地名などと対応できるように、京都や奈良のところは少し詳しく載せられていて、6年生が使うには使いやすいと感じた。

○委員・地図帳を使うというところに関して、歴史的な事象や、あるいは地理的な事象、時事的な問題の事象も含めて、いろいろなところを幅広く活用していくものだと思っている。その点からすると、2つの地図帳の索引や、資料や、イラストなど、いろいろなものが豊富に取りそろえられていると思うので、学習に関して、主体的な学習や補助的な学習の助けになのではないかと感じている。

○委員・教科書展示会に行った教員からは、帝国書院は地図が見やすいという部分と、3年生が地図を使うということで、地図への取りかかりで、「地図マスターへの道」というのが子どもたちにとって使いやすいという声が上がっていた。

○委員・両方ともページの端にインデックスがついている。中部地方とか、世

界とか、これはいいと思う。地図に動物や例えば伊勢原のところに豆腐の絵があり、それはいいと思う。帝国書院には二次元コードがついているが、授業で使うことはあるのか。

- 事務局・調べ学習でタブレットがあるので、それで使うこともある。これから考えると、欲しい情報が直接入ってくるので、あったほうが便利だと思う。パソコンで調べるとどのサイトを見たらよいかわからないといったこともある。
 - 議長・家庭に帰ってからの自主学習の中で扱うこともできるというのは想定される。
 - 議長・ほかに意見はあるか。
《なし》
 - 議長・なければ地図の検討を終了する。
 - ・各者それぞれに特徴や、よさがあったかと思う。そのことについて報告をさせていただくがよろしいか。
- (異議なし)

算 数

- 調査員・報告（「小学校用教科用図書採択調査研究の結果（令和2、3、4、5年度用）令和元年6月 平塚地区・秦野地区・伊勢原地区・大磯地区・二宮地区」のとおり）

【質疑】

- 委員・小学校でも基礎基本の定着のために、教科書以外に問題集とかワークブックというものを使って学習することはあるのか。
- 調査員・教科書以外にワークブック等を導入して使うことも多い。計算ドリル、計算スキルなどを使う。また、教科書の巻末のほうに補充問題などがどの発行者とも載っていて、こちらを基礎基本を定着するために活用することも行っている。
- 委員・プログラミング教育について、どうなるのかなという疑問がある。各者の状況を詳しく説明いただきたい。
- 調査員・大体どこの発行者も多く取扱っていたのが、正多角形の作図というところ。キャラクターみたいなものを書いて、真っすぐ何センチ進むという指令があり、その後、何度曲がる、また、何センチ進むという、それを繰り返していくと、こういった正多角形ができるというような、幾つかのコマンドを繰り返していくことで、目的の意図が達成できるようなプログラミングソフトを取り入れているところが多かった。
- 委員・ドリルを活用しているという話があったが、教科書によって、反復の練習問題的なものが多い、少ないの違いがある。個人的には、日本文教出版と学校図書と東京書籍はその辺が充実していると思う。このくらいで、足りるか、足りないかというのを1点聞きたい。また、現在、教育出版の教科書を使っているが他者の教科書になると、先生方の指導の仕

方に不具合が出るというのはあるのか。

○調査員・練習問題に関しては、授業内で行うには十分過ぎる量が各者あって、扱いきれないというのが現状としてはある。それ以外は家庭学習なり、もしくは、早く課題が終わった後に、ほかの子がまだ解いていて、待つときにやっつけていい、というようなことで定着を図るために活用することが多い。やはり時間が限られているので、授業内の練習問題だけでは反復練習が必要な単元に関しては定着が浅いところがあるので、補足的な意味でそういったドリル等を活用している。

・教科書が現行の教育出版から変わると、確かに各者特徴があるので、最初は違和感があるかとは思いますが、私が見た限りでは、学習指導要領にのっとって全て網羅されており、教えて支障があるようなことはないと思う。

○議長・ほかに質問はあるか。

《なし》

(調査員退室)

【検討】

○議長・それでは算数の検討を進める。御意見を願います。

○委員・どの教科書もそれぞれ工夫されていて、単元構成も子どもの視点に立っていると思う。ノート書き方、作り方というところについては、幾つか特色があった。

・啓林館では、幾つかノートの書き方が例示されていて、自分なりに工夫するポイントというのがわかりやすくなっていた。教育出版では、ノートを例示された後、自分のノートだけじゃなくて、友達のノートを見てみて、いいところがないかなというようなことで、工夫につなげていく投げかけがあった。

・大日本図書では、同じページに話し方、聞き方という学び方が提示されていて、まとめていく段階でのノート、それが発展していくノートというように、ノートの使い方に特色が見られたと思う。

○委員・東京書籍の1年生の最初の部分の別冊で書き込みができるようになっている形は、大きさも見やすく、使いやすくしていると感じた。

・学校図書は6年生の別冊の中に「中学校へのかけ橋」というのがあり、中学校の数学の内容に単元を持つことができるように工夫されているという印象を受けた。

○委員・いろいろな工夫の中で、教育出版の中には「学びの手引き」という項目があり、その中に具体的に垂直線の書き方とか作図の仕方とか道具の使い方が載っていて、算数の見方、考え方もまとめられていて、わかりやすいと感じた。

・大日本図書では、前学年で学んだことがまとめてあり、日本文教出版は、巻末に学び方ガイド、算数で使いたい言葉、考え方というのがまとまったシートが入っていて、それが切り離して使えるようになっている。

・啓林館は、同じように学んだことがまとめられたページがあって、その学んだことを次に生かそうというのがそれぞれの教科書に入っているのいいと思う。

○委員・プログラミングのところで、どのような活動をされていくのかなというところを見ると、どの教科書においてもよく考えられて書かれていると思った。

・その中でも大日本図書と、学校図書の教科書に関しては、学年ごとにその項目が設けられていて、子どもが発達段階に応じてコンピューターやプログラムに親しみやすいような課題が設定されているというところがとてもいいと感じた。

○委員・練習問題がそれぞれの教科書で豊富に用意されているので、個別の能力に応じて問題を定着させるのに使えると思った。巻末に、またそれとは別でいろいろな問題が用意されているので、個に応じて練習問題をやって、定着に向けてできるというのと、少し難易度の高い問題もうまく入れられているので、それぞれに応じてできると思う。

・中でも、教育出版の教科書のつくりだと、毎時間、確かめの場面が設定されているので、学んだことがしっかり復習でき、定着できているかを確認できていいと思う。

○委員・今回の学習指導要領の改訂で、算数については、今まで算数的活動というふうに学習指導要領に書かれていたことが数学的活動となり、数学的に物の見方、考え方をするというようになった。その算数的活動、算数的な見方と、数学的見方というのは何が違うのか、どこがどう違うのか、自分なりの解釈の一つには、学んだことを日常生活に落とし込んでいく、あるいは日常生活から疑問を持って、それを算数的に解決していくというところが、数学的な見方、考え方だとか活動かなというふうに思っている。

・そういった意味では、その数学的活動を教科書の場合、どう取り上げていくかという部分だと、大日本図書では、「算数玉手箱」ということで、日常生活から算数の疑問を見つけ、学習内容を日常生活から課題として取り上げていくという活動がある。

・学校図書も、「はてな発見」ということで、同じような形で、日常生活の中から疑問を出していくということがある。

・教育出版は、単元導入のきっかけの提示や、単元末に学んだことを使ってみよう、学年末にそれを算数を使って考えていこうというような、数学的な発展を持った教科書のつくり方をしている。数学的活動、数学的に考える見方、考え方ということについて、各者取り上げ方もいろいろだが、工夫されていると思う。

○委員・1年生が初めて算数に触れ合うとするなら、日本文教出版か、学校図書か、東京書籍がわかりやすそうなる気がする。反復問題が多いのは日本文教出版と学校図書と東京書籍だと思う。これはレベルがちょっと高い

んじゃないかと感じたのは啓林館と教育出版かと個人的に思った。

- 議長・どうしても進みぐあいにも個人差が生じやすい教科でもあるので、そこに対応できる内容が必要かなと思う。今、比較的若い、経験の浅い先生が増えている状況にあるが、今回の教科書の中でそういった先生にとって教えやすい工夫とか気づかれた方がいれば教えていただきたい。
- 委員・その時間に何を学習するかとか、めあてや課題が明示されている必要があると思う。それが子どもたちが迷わずに学ぶためにとっても大事である。大日本図書、学校図書、啓林館の3者については、めあてが示されていて、それが一つの子どもたちの手がかりになる。東京書籍はマークで課題が書かれていて、そういう点で子どもたちの手がかりになる。教育出版は、「はてな」という部分にそのようなことが書かれていて、このようなめあてや課題を1時間の授業の最初に示して、子どもたちに何を今日学ぶのかということを明確にして、それについて考え、解決していくということで流れが作りやすいと思う。学習の流れを子どもたちにしっかりつくってあげられると感じる。
- 議長・ほかに意見はあるか。
《なし》
- 議長・なければ算数の検討を終了する。
・各者それぞれに特徴や、よさがあったかと思う。そのことについて報告をさせていただくがよろしいか。
(異議なし)

【理科】

- 調査員・報告（「小学校用教科用図書採択調査研究の結果（令和2、3、4、5年度用）令和元年6月 平塚地区・秦野地区・伊勢原地区・大磯地区・二宮地区」のとおり）

【質疑】

- 委員・理科は日常の不思議なところから入っていくと思う。それが興味とか関心を高めることになっていくと思うが、日常生活とのつながりなどが工夫されているところはあるか。
- 調査員・例えば東京書籍などでは「理科の広場」というところがあって、日常生活とのかかわりや職業など、そういうところについて触れられて、日常生活のつながりが示されてる。同じく、大日本図書については「理科の玉手箱」というところで、日常生活とのつながりが示されている。
- 委員・理科では、観察、実験等が多いと思うが、教科書にはどのような工夫とか配慮がされているか。
- 調査員・観察実験は、どの教科書でも同じように、問題を見いだす場面から始まり、最後のまとめに関するところまで矢印でつなぐなど、それらに関連づけながら子どもたちが取り組みやすいように工夫されている。
- 委員・理科で学年ごとにこれを教えるというテーマがあるが、その順番とい

うのは文部科学省で決まっているのか。というのは、学校図書以外は、3年生のカリキュラムで、太陽と光とか、影と太陽という後に光の性質が入っているが、学校図書は離れている。例えば影と太陽と光の性質だったら、学校図書以外のよう、似ている単元を続けているのかと思ったのだが、先生の立場から、それが離れているとやりにくいか使いにくいとかがあるのか。

- 調査員・私個人の意見になってしまうかもしれないが、各者とも単元配列に関しては、一般的に教えやすいように単元の配列がされていると思う。学校図書がそれを離したということは、やはり何らかの意図があって離して扱っていると思う。
- 委員・先生としては、それは別にやりにくいかはないのか。
- 調査員・個人としては、似ている単元はやはり子どもたちの思考もつながりを持って学習ができると思うので、近いほうが個人的には扱いやすい。
- 議長・あと、どうしても理科は季節に特化した教材もあるので、それを踏まえての配列もある。
 - ・ほかに質問はあるか。

《なし》

(調査員退室)

【検討】

- 議長・それでは検討を進める。御意見を願います。
- 委員・どの発行者のものも多彩な図や写真が多く使われていたと思う。特に子どもの視点からすると、理科の授業では、図や写真が多いほうが効果的と感じた。
- 委員・理科では実験や観察で、子どもの目に見えやすいものはいいが、見えにくい実験とか観察、また、体の中のことというのはわかりづらいので、大きく写真やイラストがあったほうがいい。東京書籍は結構大きくイラストもとっていたりしているので、わかりやすい。学校図書も人の体のところに写真が載っているなど、資料が各者充実している。写真などの資料が大きいといい。
- 委員・理科はその教科の性質上、どうしても、いわゆる座学というよりは、観察とか実験をするような体験的な活動が必要かと思う。興味・関心を持ってそういったものに取り組んでほしいと思うと、東京書籍と啓林館は各単元に入っていく前、あるいは導入前に工夫があると感じた。ここにあるように、「理科の広場」で施設を活用しようなどのページが設けられている。
- 委員・理科の学習活動の中で、人の話を聞いて、さらに深めるという対話的で深い学びというものを、実験をしながらあれこれ考えていくという場面は多々あるが、東京書籍と大日本図書では、これについて、教科書の中に考え方や、友達の考え方を聞こうとか、自分の考えをそれで見直すというような流れになっているかと思った。学校図書と啓林館では、振

り返る場面というのが書いてあって、振り返る例が示されている。

○委員・この中に書かれている内容をどういう順番でやるかは、教科書発行者の工夫だと言っていた。ただ、この中に書かれていることはやらなきゃならないことだと思う。それがどう言語化されているかが教科書だと思う。理科だと、季節ものが結構配置にかかわってくるかと感じている。どの教科書も非常にわかりやすく、理解が深まるような構成の工夫がされていると思ってる。

・課題解決、問題解決では、「どうしてなのかな」、「ああ、そうなんだ」ということが次につながっていくということであると、まとめの部分というのが大事かなと思う。そういった意味では、学校図書はチェック欄があって、最後まとめるところがあり、教育出版では、ノートのとり方、ノートをこうやってまとめていくといいということが示されている。啓林館では、さらにまとめたノートを人に伝える言語活動的な部分で、こうやって伝えると伝えやすいからこうやってまとめてみようということが書かれていて、まとめ方に工夫されている部分があると受けとめた。

○委員・どの会社も付録がついていて、教育出版の裏、ここに安全の手引きを持ってくるというのはいいと思った。学校図書は、左端にインデックス的なものがついていてよかった。東京書籍は巻末に、調べ方を身につけようなどがあり、そういうのが工夫されていると感じた。

○委員・4月に毎年、全国学力・学習状況調査というのがあり、3年に一度、理科についての調査があり、平成30年度に3年に一度の調査があった中で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えること、これが課題の一つとして示されているが、この課題について各者の中でそういった配慮があったというものがあれば教えていただきたい。

○委員・大日本図書に関しては、実験のページに、巻末に記載された扱い方のページに導かれるようにページ数が書かれている。東京書籍と学校図書、そして、啓林館は、一番巻末に器具の使い方や注意点が、単元に加えて、最後にまとめて載っているようになっている。特に啓林館に関しては、巻末で器具の扱い方を振り返ることができるようになっているし、実験の注意もところどころで、マークで示すような形で、やっているときと、後からまとめて見ることができる配慮がなされていると思った。

・実験の注意点に関しては各者あるが、振り返れるようになっているのは工夫されていると思った。

○委員・振り返るといところから見ると啓林館は単元の終わりに「まとめノート」というのがついていて、学習の内容を振り返ることができるようになっている。教育出版では、単元の最初に関連することについても触れられているので、学びのつながりが意識されている構成である。東京書籍では、単元ごとに「学ぶ前の私」とか「学んだ後の私」というのが

あって、それぞれ自分が何ができるようになったかというのがわかるような構成になっていると思う。

○議長・ほかに意見はあるか。

《なし》

○議長・なければ理科の検討を終了する。

・各者それぞれに特徴や、よさがあったかと思う。そのことについて報告をさせていただくがよろしいか。

(異議なし)

生活

○調査員・報告（「小学校用教科用図書採択調査研究の結果（令和2、3、4、5年度用）令和元年6月 平塚地区・秦野地区・伊勢原地区・大磯地区・二宮地区」のとおり）

【質疑】

○委員・生活科では、教科書はどんなふうに使われているのか。

○調査員・生活科では、体験を通してということが軸になってくるので、まず教科書について、子どもたちに見通しを持たせたり、これから行う活動の流れなどを話したりするときを使う。それから、体験をした後の振り返りや、やっていく中で、補助的に資料等が巻末にもあるので、見て使っている。体験の中身については、各学校の実態に応じて行っていく。

○委員・小学校の1・2年生の生活科というのがどんなことをやっているのかなというのがわかりにくい部分なので、どんな学習を行っているのか、概略をお話したい。

○調査員・生活科は、体験を通して自分自身、また、身近な人々、社会、自然について、一体的に学ぶ教科である。学校の実態に応じて学習指導要領の内容に示されている内容の中で単元を組んで、教科書も使いながら体験を通して、いろいろなつながりを学んでいくということになる。

○委員・学校の中を探検するような、そういうこともあるか。

○調査員・はい。子どもたちの周りから学習をしていく。

○議長・ほかに質問はあるか。

《なし》

(調査員退室)

【検討】

○議長・それでは、検討を進める。御意見を願います。

○委員・どの教科書も、子どもの関心、意欲を大切にして、高める工夫がなされていると感じた。挿絵とか写真を多めにして、子どもがやりたくなるような工夫が多い。中でも、東京書籍は、吹き出しで、「どうしたらいいのかな」と投げかけてあり、日本文教出版は、生活探検隊というキャラクターを出して、一緒に探検していくような工夫がなされている。どの会社も意識を高める、関心を引くような工夫が上手になされていると

感じた。

○委員・子どもたちが体験したことをまとめていくというようなこと、学習の過程ということを考えていくと、啓林館は、学んだことを活用する欄が実生活へつながるような工夫がされている。あと、学校図書では、単元ごとに4段階の学習展開というのが投げかけられて、示されていて、子どもが活動しやすい構成になっていると思った。

・学んでいく途中で、一つずつステップが上がっていくということ、そして、最後にまとめていくということについてはどの発行者も工夫がされていると感じた。大日本図書では、巻末に、学習道具箱というような形で、学んだことをステップ・バイ・ステップで確認しながら進んでいける、そんな工夫がされていると思う。

○委員・教科との関連等について、どの発行者も工夫や配慮が見られた。特に東京書籍では、具体的なつながりの例や、関連する教科について示されているので、他教科との関連についてわかりやすいと感じた。

○委員・幼稚園や保育園から入学してくるところで、就学前のところと学校に入ってからというところの接続というか、円滑な移行というところも大事かなと思う。そういうところも各者、幼稚園からのつながりを大事にして、写真であったり、資料であったりと入れている。東京書籍は、幼児期までに育てほしい姿というのが掲載されていて、保護者向けにもメッセージがあって、保護者と連携して、学校生活に慣れていくというところが工夫されている。写真なども入学したてのころや、いろいろなところを使っていて、うまく幼稚園、保育園からの接続というところも工夫されていると感じた。

○議長・つながりというキーワードでいうと、基本的に他教科とのつながりもあり、学年間のつながり、就学前の幼稚園や保育所、こども園とのつながり、中学校とのつながりなどを意識していくようになっていると感じている。

○委員・どの教科書も対話というのが工夫されていて、教科書の中に対話が入っているなど、対話的で深い学びというのは意識されていると思う。

・光村図書出版に関しては、ホップ・ステップ・ジャンプという3段階の見通しが最初にあるというのは活動しやすいと思う。

・教育出版では、単元の最後にどんなことを感じましたかという振り返りができるようになっている。東京書籍は、単元の冒頭に「何々かな？」など、はてなマークが浮かぶような表現なので、子どもたちとしては何をするのかかなというのがわかりやすいと感じた。

○委員・全ての教科書がいろいろ工夫されていて、付録でポケット図鑑がついていたり、学びのポケットというのがついていたりする。啓林館は巻頭にアイウエオと分けている。個人的にいいと思ったのは、大日本図書で、下巻に、「夜の長さってどのくらいかな？」とあり、これはいいな、わかりやすいなと感じた。

○委員・工夫が入っているのはすごくわかり、自分が子どものころに、小学生のときに習ったのというのは、1年生から社会や理科があったのが、ここに来て、生活科として、全体的な生活との結びつきだとも含めた教科に変わってきているというので、子ども自身も入りやすくなっているのではないかなと感じた。

○議長・ほかに意見はあるか。

《なし》

○議長・なければ生活の検討を終了する。

・各者それぞれに特徴や、よさがあったかと思う。そのことについて報告をさせていただくがよろしいか。

(異議なし)

音 楽

○調査員・報告（「小学校用教科用図書採択調査研究の結果（令和2、3、4、5年度用）令和元年6月 平塚地区・秦野地区・伊勢原地区・大磯地区・二宮地区」のとおり）

【質疑】

○委員・子どもたちの興味を引くような曲とか活動にはどんなものがあったか。

○調査員・写真が載っているものとか、子どもたちの耳に残る曲などがとても印象に残って、喜んで取り組むのではないかなと思う。アニメの曲やドラマの曲、映画の曲も載っている。

○委員・音楽に限らず、教育課程では、それを実施していこうとすると、主体的で、対話的で、深い学びということについての充実が求められるが、音楽では、教科書でどういうふうに扱っているか。

○調査員・まず自分で、この歌、この合奏ではこういう表現をしたいという思いを持つ、自分がこういうことを演奏したいという思いを持つというところから始まると思う。その中で、このパートはどのように演奏していくかというパートごとの練習であったり、また、クラスごとの練習というものの中で、お互いに、アドバイスをし合ったり、友達から聞いて、少し変えていったりというものが必要になってくる。そのようなことが主体的に取り組む例の一つとして挙げられる。

○議長・ほかに質問はあるか。

《なし》

(調査員退室)

【検討】

○委員・それぞれ工夫がされているが、違うと感じたのは、表現と鑑賞の部分で、教育出版のほうは、鑑賞をして、身体表現をするときは、体を動かす、音に合わせて体を動かす、手拍子するなど、自分なりの表現をしていくということが鑑賞と結びついていたと思った。教育芸術社は、音楽、鑑賞の教材が歌であったり、器楽であったりという、そういった技能の

ほうと結びつくというか、そんな関連づけで構成されていたのかなと感じた。どちらがいいかはそれぞれ特徴あると思うが、音楽という取りかかりの部分で考えていくと、聞いて、何か表現するということから始めていくというのも大事だと思った。

○委員・音楽づくりのような単元が、教育出版では、思考力・判断力・表現力というところを育てようというところでは、「音のスケッチ」、「音楽をつくろう」というところがある。苦手な子にも配慮されていて、手順がとても細かく書いてあるので、おそらく少し苦手な子でも段階を追って、学習ができるのかなという工夫がされていると思う。

・教育芸術社のほうは、うまくキャラクターを使って、一言アドバイスみたいな形で載せているので、苦手な子にもやってみようかなという点が2者ともアプローチは違うが、うまく工夫されていると感じた。

○委員・日本の伝統や文化というものを表現し、受け継ぐといった視点で見ると、教育芸術社では「歌いつごう、日本の歌」、教育出版では、「日本の歌」などで紹介されている。

・例えば『荒城の月』は、教育出版では折り込みページで取り上げることで、目立たせている。子どもたちは、ポップスに慣れ親しんでいるが、教科書という場で日本の伝統的な音楽を伝えていく。

・『翼をください』という歌が見開きになっていると思う。これももう大分昔になるが、サッカーの応援団の歌になっていた。東日本大震災のときに避難所等でみんなで歌われたのは『ふるさと』だったと思うが、『ふるさと』も丁寧な扱いをされている。・子どもたちが関心を持つ、そして、イメージを膨らませて、歌っている。それが時を超えて、または世代を超えて、人々の中に伝えるという、そういうことを学んでいく場として、非常に小学校の音楽、そこで使われる教科書というのがそういった面にも配慮されているかということも重要な視点と感じている。

○委員・両者とも右端にリコーダーの指使いが載っていて、工夫がされている。教育出版は3年生と5年生で途中にクリアページがあって、こういう工夫もよい。5年生はオーケストラで、ここは何ですよみたいな工夫がわかりやすい。3年生は全音符、二分音符をこういうのでわかりやすくしている。教育芸術社は雅楽のページが教育出版より多かった。

○委員・楽器の取扱いで、教育芸術社では、ドの位置を覚えるために、ドンダリのキャラクターをうまく使って、子どもたちが苦手意識なくできるように配慮されている。

・教育出版では、タンギングをシの音だけで、話すようにやってみようといったように、簡単などころから段階的にできるような工夫がされている。音の高さが、視覚的にもわかるような配慮されている。両者とも本当に工夫されてて、苦手な子でも取り組みやすい教科書になっていると感じた。

○議長・ほかに意見はあるか。

《なし》

- 議長・なければ音楽の検討を終了する。
 - ・各者それぞれに特徴や、よさがあったかと思う。そのことについて報告をさせていただくがよろしいか。
- (異議なし)

【図工】

- 調査員・報告(「小学校用教科用図書採択調査研究の結果(令和2、3、4、5年度用)令和元年6月 平塚地区・秦野地区・伊勢原地区・大磯地区・二宮地区」のとおり)

【質疑】

- 委員・小学校の図画工作の時間というのは、作品をつくったりして、結構忙しいと思うが、その中で教科書はどのように使っているか。
- 調査員・教科書を使うのは大体導入のときである。作り方を説明したり、安全について子どもたちに伝えたりする。また、見本が載っていて、子ども目標になるような作品も選んで載せていると思うので、導入に使う。
- 委員・作品づくりの表現とか、友達のものを見ようという、鑑賞といった学習内容があると思うが、それらを相互に関連させながら取り扱って、学習を進めていくための工夫や配慮はあるか。
- 調査員・両者とも途中で鑑賞することや、友達の作品を見て考えることが掲載されている。
- 委員・開隆堂には、他教科とのつながりが載っているが、どのようなものがあるのか。
- 調査員・お話の絵だったり、あるいは外遊びなどの自然について、例えば葉っぱを拾ってきたり、ドングリを拾ってきたりなどは、理科に通じることがあると思う。自然の材料や場所を生かして制作活動をするとかなどといったところでつながりがあると思う。
- 議長・ほかに質問はあるか。

《なし》

(調査員退室)

【検討】

- 議長・それでは、検討を進める。御意見を願います。
- 委員・教科書は最初の導入のイメージで使う。巻末にそれぞれ安全指導等があるが、特徴的なのは、日本文教出版のほうは、巻末に材料や、用具の安全な使い方、表現や材料の多様さについて大きな図面で載せられている。もう1回試してみようかなという関心を引くような工夫がされている。
 - ・開隆堂のほうも同じように造型の引き出しということで、今までやってきたやり方や、安全指導についてもいろいろ工夫されているので、こ

の巻末を使って、どちらも最後の確認や、これからやるときの注意点というところで、うまく使えるような工夫がされていると感じた。

○委員・授業を進めていく上で安全が大事であるが、日本文教出版では、学習のめあてや、安全に配慮する部分が題材ごとに絵でも気をつけようとしている。それぞれいろいろな題材、単元がある中で、注意する部分について注目させていると思う。

・開隆堂は、学習の面での振り返りや、用具、材料などがあるが、安全の部分でいうと、少し日文のほうがよいと思う。

・造型的な見方、考え方という、つくっていくモチベーションという部分では、開隆堂は、子どもたちがつくっているときの感想がつぶやきに入っていて、つくっている当人たちも、ああ、同じだとか、同じことを悩んでいるんだなというようなことを共感しながら進めていけると思う。

・日本文教出版は、題材や教材の見通しを持って進めていくときのヒントなどが吹き出しに書かれている。「教科書にヒントが載っていると思うよ」と言って、教科書を見たときに、自分が困っていることがヒントになって出てくる、というような使い方ができると思う。

○委員・一人で創作活動をやるというのもあるが、題材によっては、友達とかかわりながら作品をつくっていきこう、楽しんでいきこうというものも多くて、そういう意味では、開隆堂は、友達と協力して表現する活動で、お互いの考えを主張したり、互いのよさを感じ合えるような題材が幾つか設定されている。

・日本文教出版も、子どもの発達段階に合わせて、図画工作を通して、さまざまな人とかかわっていきこう、つながっていきこうというところが写真や、挿絵、吹き出しなどに書かれていて、この吹き出しなどがあることによって、子どもたちもイメージしやすくなると思う。友達の意見や、よいアイデアを多面的、多角的に自分の作品にも取り入れるだろうし、友達の作品の見方というところにもいい影響が出ると思う。

○委員・個人的には、1・2年生の教科書を見比べたときに、日本文教出版のほうが、内容が多く、逆に開隆堂のほうがすっきりしていて見やすいというイメージがある。

○議長・ほかに意見はあるか。

《なし》

○議長・なければ図画工作の検討を終了する。

・各者それぞれに特徴や、よさがあったかと思う。そのことについて報告をさせていただくがよろしいか。

(異議なし)

家庭

○調査員・報告（「小学校用教科用図書採択調査研究の結果（令和2、3、4、5年度用）令和元年6月 平塚地区・秦野地区・伊勢原地区・大磯地区・

二宮地区」のとおり)

【質疑】

- 委員・家庭科では、製作や実習を中心に授業を進めていくと思われるが、その際に教科書はどのような使い方をされるのか。
- 調査員・どちらの教科書も見開きで使うことができ、このような状態で開くと、左から写真を見ながら手順を確認することができる。東京書籍は非常に大きく示されているので、実習などのところでは、このように左から順番に写真を見ながら、イラストを見ながら自分で確認することができるようになっている。
- 委員・実生活に活用できる力という話があったが、実際のところ、家庭での実践というものを取り組ませる工夫とはどうされているのか。
- 調査員・どの題材も最後には、自分の生活でできることといったような内容が必ず載せられている。例えば手縫いのところでは、自分たちでつくったもの以外にも、教科書の中で幾つか作品が紹介されていて、手縫いを生活に生かそうということで、ポケットティッシュカバーやペットボトルキャップのペン差しなどについての手順が載っている。調理のところでは、レシピもついているので、自分でやってみたいなと思うことを取り組めるようになっている。
- 議長・ほかに質問はあるか。
 《なし》
 (調査員退室)

【検討】

- 議長・それでは、検討を進める。御意見を願います。
- 委員・両方とも写真や図が豊富にあって、構成がそれぞれ工夫されている。東京書籍のほうがA判のサイズでちょっと大きくて、実習の手順もそれなりに大きく掲載されていて、そういうところがいい。ただ、開隆堂はAB判で、ちょっと小さいが、やはり実習の手順は写真とイラストでわかりやすく例示されている。実習等のときにはそれがコンパクトに逆に使いやすいとも思った。
 - ・家庭科の授業というのは実習があるので、写真とか図とかイラストなどが豊富にあると、活動全体の見通しが子どもたちにとってわかりやすいと感じた。
- 委員・どちらの教科書も学習の流れがわかりやすく、把握しやすい。最初にめあてがあり、見開きになっているので、流れがわかりやすく、新学習指導要領の内容も取り入れたものになっていると思う。また、単元の初めに、その単元のめあてがわかるように書かれていて、これから行う活動について子どもたちが主体的に、積極的に取り組むことができるように、工夫がされていると感じた。

- 委員・家庭科というのは、授業の中で実習あるいは製作を通し、知識・技能を得た上で家庭に戻り、実生活でどう生かしていくかということが大事な教科と思う。そういった点では、東京書籍は生活を変えるチャンスというコーナー、あるいは、開隆堂はチャレンジコーナーが掲載されている。ということで、学んだことを実生活でどう生かしていくかといった取組が書かれていて、生活との関連性、実生活との関連性が高められる構成になっていた。
- 委員・開隆堂では、生活の中のプログラミングというページが設定されていて、主に家電製品のプログラムで行われていることが資料で掲載されていた。新しい学習指導要領の内容を意識していると思う。このように身近な生活の中でのプログラミングという取り上げ方は、考え方を学んでいく上ではわかりやすくよい。
- 委員・家庭で子どもたちがいろいろ何か創作したり、食事をつくってくれたりということがあったので、両者とも細かく記載がなされているところが、よいと感じた。
- 議長・ほかに意見はあるか。
《なし》
- 議長・なければ家庭の検討を終了する。
・各者それぞれに特徴や、よさがあったかと思う。そのことについて報告をさせていただくがよろしいか。
(異議なし)

保 健

- 調査員・報告（「小学校用教科用図書採択調査研究の結果（令和2、3、4、5年度用）令和元年6月 平塚地区・秦野地区・伊勢原地区・大磯地区・二宮地区」のとおり）
- 【質疑】
- 委員・教科書は、授業ではどんなふうに使われているのか。また、各者で印象に残った工夫をした点があったら教えていただきたい。
- 調査員・基本的に教科書を使って授業を進めることが多い。児童は、まずステップを踏みながらどのように活動していくかという見通しを持ち、活動し、最後に振り返りをするといったような学習を進めていく流れが多い。
・各者の特徴は、東京書籍は、4つのステップが示されていること、大日本図書は、学習ゲームという導入のゲームが示されていること、文教社は、まとめの段階の〇〇宣言、また、光文書院は、単元導入の4コマ漫画。学研は、科学の目が印象に残っている。
- 委員・子どもたちの身近な生活につながる工夫という意味で、各者の工夫などを詳しく教えていただきたい。
- 調査員・身近な生活につながるということでは、どの発行者も身近な生活から

課題を見つけ、学習活動を通して、最後に、資料や振り返りで生活に生かす工夫がされている。資料で示されているものでいえば、最初の扉絵から、自分も関係があると意識させるため、同学年程度の子どもたちを載せていることが多い。体の発達に関しては、同じような年齢の子たちが載っていたり、また、身近な写真が載せられていたりといった工夫が各者で見られると思う。

○議 長・ほかに質問はあるか。

《なし》

(調査員退室)

【検討】

○議 長・それでは、検討を進める。御意見を願います。

○委 員・どの発行者もどのページを開いても多様な資料が、また、色が鮮やかなイラストや写真が載っていて、子どもの興味・関心を引き出す工夫がなされているという感じを受けた。

・東京書籍については、ところどころに実物大の写真が掲載されていて、より子どもたちにとって具体的なわかりやすい工夫がなされているという感じを受けた。

○委 員・どの発行者も、子どもたちが積極的に、主体的に関われるような、興味・関心を引くような工夫がなされていると感じた。文教社では、課題解決に向けて、キャラクターの対話文で、児童にとってわかりやすく進むように工夫されている。

・光文書院は、最初に4コマ漫画を使って、前もって、これから学習する課題が児童により身近に感じられるように工夫がされている。

○委 員・引き続き紙面の工夫ということになるが、大日本図書はシールを使って、3・4年生のところでシールを張っていきながら、活動について、あるいは課題について意識していくということが工夫されている。

・東京書籍は、単元の初めに学習の流れについて提示して、最終的な目標や学び方が明示されていたので、子どもにとって見通しが持ちやすい。

・学研教育みらいは、開けたときに、「つかむ」があって、「考える」があって、そして、「まとめる」、「深める」という流れになっていて、今日はこういう過程を経て、ここまで学んでいくんだなということがわかりやすかった。教科書展示会にいった教員からも、子どもがわかりやすいということは、教える側としても非常に教えやすい、見通しを持った指導がしやすいという声が聞かれた。

○委 員・特に体の発達、発育とかについて、3・4年生では個人差がとてもあるときだと思うので、そここのところの配慮や、もちろん思春期もあるので、その配慮も必要だと思う。その中で見ていくと、学研教育みらいや文教社の教科書が、比較的に見やすいと思う。

○委 員・喫煙、飲酒の害や、薬物乱用防止についても取り扱われると思うが、

そのことについて、やっぱり小学校の段階でしっかり学んでもらいたい。
・学研教育みらいでは、そのことについて比較的多くのページを使って扱っているのではないかと思う。さらに言えば、生活習慣病などについても同様で、小学校の段階からしっかり知ってもらえたらと思う。

○議長・ほかに意見はあるか。

《なし》

○議長・なければ保健の検討を終了する。

・各者それぞれに特徴や、よさがあったかと思う。そのことについて報告をさせていただくがよろしいか。

(異議なし)

英 語

○調査員・報告（「小学校用教科用図書採択調査研究の結果（令和2、3、4、5年度用）令和元年6月 平塚地区・秦野地区・伊勢原地区・大磯地区・二宮地区」のとおり）

【質疑】

○委員・児童が楽しめたり、興味・関心を引いたりするような工夫や、内容などの特徴があったら教えていただきたい。

○調査員・各者、子どもの興味を引く工夫はかなりあるが、冒頭にビデオを見せたり、歌から入るといところはかなり印象的である。例えば学校図書については、歌から入る。学ぶことに関係する表現が使われたような歌も入っており、歌から何か学ぶといところに入っていく自然な流れがあるのも印象的である。

・そのほかに、スマートフォンで読み取ると、画像などが出るということも子どもにとって興味を引くものだと思う。

○委員・外国語の必修化に伴い、中学生の学びにつながることで考えていくと、書くとか、示されたものを読むという、文字を認識していくといった基礎力もつけていく必要性が小学校時点でも出てくると思う。今回、教科書において、この点についての配慮というのはどのようにされているか。

○調査員・各者、聞く、話すから入っているが、それをやりつつ、必ず書くといところも、各単元に、差し挟んでいる。かといって、書いてばかりだと小学生の気持ちは離れるので、バランスのよい構成になっていると思う。

○委員・中学校で使われている教科書が三省堂で、中学校の先生からすると、小・中一貫のほうが進みやすいのか、それとも、小・中で発行者が変わっても問題はないのか。

○調査員・個人の感覚では、例えば算数を教えていて、子どもたちが中学校に行くと、数学を学ぶときに、違った発行者の教科書を使っている、そこまで困ることはないかなと思う。

○議長・ほかに質問はあるか。

《なし》

(調査員退室)

【検討】

- 議長・それでは、検討を進める。御意見を願います。
- 委員・英語能力の育成についての工夫や配慮は、県の調査資料を見ると、どの発行者もコミュニケーションを図る活動が設定されている。東京書籍、開隆堂、学校図書、三省堂については、繰り返し音声を聞き、繰り返し話す場面が多く設定されていると思う。繰り返し触れていくので、より慣れ親しむことができるのではないかと思う。
- 委員・読むことというところで教科書を比べてみたが、なじみやすい題材をどの教科書も使っていると思う。その中で、東京書籍や教育出版は、物語的なものを題材にしていたり、開隆堂、学校図書は、日常生活の中の話が題材になっている。三省堂と光村図書出版では、比較的ゲームを取り入れたような読み物になっているというふう感じた。
- 委員・私は、アルファベットを書いていくという視点で見た。どの教科書も活字体とかブロック体、それを書いていくというところでは出たはいたが、いわゆる4本線があって、下から2本目が基準の線で、それが赤だったり、ピンクだったり、青だったり、いろいろある。その上の真ん中のところが広がっている。2線目と3線目が広がって、比較的書きやすいものを導入の部分では使っていて、最終的には線が全部同じ幅になっていく。まずはそういったところから工夫がされている。
 - ・東京書籍は、丁寧に活字体の書き順や注意点を書いてあったと思うし、学校図書は、なぞり書きから写し書きへというようなステップがあり、啓林館については、例文を見ながら書き写すということで、書くことへのハードルを低くしている工夫が幾つか見られた。
- 委員・どこの発行者のものも、国際理解を深めることができるように、いろいろな配慮がされているというのがとてもよくわかる。世界の文化ということ、それから、日本の文化についても、どの教科書も触れている。特に東京書籍は、地域から日本、日本から世界へというふうにだんだんと視野を広げていけるような流れになっている。光村図書出版は、日本との共通点、あるいは日本との相違点というのを理解して、外国に対しても関心が高まるように工夫されている印象を持った。
- 委員・単純に大きさだけ見ると、7者のうち、東京書籍と学校図書がA4サイズ、その他の5者がA B判というところで、この大きさの違いというものも特徴の一つであると思う。また、東京書籍には別冊があり、一つ大きな特徴かと思う。
- 委員・英語に限った話ではないが、小学校の授業は45分なので、子どもの集中力を考えて、15分、15分、15分で3つに区切って考えられることは多い。英語のこの教科書も東京書籍と学校図書では、一つの活動

を15分目安で、3ステップで区切っている特徴を持っている。学校図書に関しては、一つのセクションで、同一の目標設定ということで、ここは子どもがわかりやすく取り組めるような工夫がなされていると思った。

○委員・各者とも学習指導要領に基づいての中学校での学習、また、小学校での学習ということのつながりに十分配慮されている構成になっているかと思う。

・その中でも特徴として感じるのは、例えば東京書籍や光村図書出版は、学校の生活場面や、ふだんの生活場面を振り返る設定がされており、工夫されていると感じた。そのような場面と対応させながら学習を進めるような感じになっていて、親しみやすさがある。

・学校図書は、歌を取り入れていて、確かに外国語活動の中では、歌で親しむというところがある。その歌を見ていくと、この中に過去形など、中学校で学ぶ文法的な要素もあえて意図的に取り入れながら、さまざまな歌を紹介していると思う。授業の展開の導入のところに歌を取り入れるという構成が組まれていて、親しみやすさや、耳なじみというところに工夫がされていて、それが内容的にも中学校で学ぶべき文法的な要素も含まれているということで、非常にうまく意識されている構成になっている。

○議長・ここで初めて教科化をされた新しい教科書だが、中学校としては、ここで教科化になって、いろいろと内容が増えたことで、英語嫌いにならずに中学校に来てほしいというのは聞いたことがある。そんな中で興味を引いて楽しめるような取組はたくさんされていると思うので、選ばれた教科書で小学校で楽しい英語を学び、中学校につながることも期待したいと思う。

○委員・週何時間英語の授業があるのか。

○議長・来年から高学年で週2時間。

○委員・2時間でこの量は、多いと感じる。東京書籍のこの別冊は、5年生ぐらいたと、ちょうどこういうのを使うのはいいと個人的には思うが、どの教科書もボリュームが多いと感じた。

○議長・教科書全ての内容を網羅するというよりも、教科書を使って学んでもらうということで、無理のない教育活動につなげてほしいと私も願っている。

○議長・ほかに意見はあるか。

〈なし〉

○議長・なければ英語の検討を終了する。

・各者それぞれに特徴や、よさがあったかと思う。そのことについて報告をさせていただくがよろしいか。

(異議なし)

特別の教科 道徳

○調査員・報告（「小学校用教科用図書採択調査研究の結果（令和2、3、4、5年度用）令和元年6月 平塚地区・秦野地区・伊勢原地区・大磯地区・二宮地区」のとおり）

【質疑】

- 委員・現在、小学校のほうでは、いわゆる別冊がない教科書を使っていると思うが、実際の授業ではどうしているか。例えば教材か何かを用意しているのか、それとも、何かプリントを用意するのか。
- 調査員 ワークシートを使って、そこに自分や友達の考えを書いたり、ほかの教科と同じように、ノートを使って、学習したり、さまざまである。また、形式は違っていても、子どもたちが学んだことを残して、後から振り返ることもできるようにしているのが共通である。
- 委員・道徳が教科化になってから、やってみると難しいと思うことはあるか。
- 調査員・子どもたち一人ひとりの学習の状況を教師が的確につかむということが難しい。ワークシートやノート、それから、授業中の発言、聞き方の様子などから見取っていくわけだが、そういうところに難しさを感じており、研究の余地があると思う。また、子どもたちの考えや気づきを生かしていく授業をつくっていくということは、課題として難しいと考えている。
- 議長・今回、道徳については、2年前に採択をして、改めて2年後、今回の採択になるわけだが、この2年間で、2年前の教科書と今回の教科書で変化を感じたりというのが、あったら教えていただきたい。
- 調査員・やはり読み物というだけではなくて、ジグソーパズル、漫画を入れたりとか、あと、教材の中では、一つの答えをあえて書かない形にして、幾つかが示されていて、その中から子どもたちが考えるというような形になっていて、教材の幅が広がったということは感じている。
- 議長・ほかに質問はあるか。

《なし》

（調査員退室）

【検討】

- 議長・それでは、検討を進める。御意見を願います。
- 委員・8者の中の違いを一つ大きなところでいうと、別冊があるか、ないかということである。あるのが3者、学校図書、日本文教出版、廣済堂あかつき、ないのが残りの5者の東京書籍、教育出版、光村図書出版、光文書院、学研教育みらいである。
- ・何らかの形で子どもがどう変容したかを見取るためには、記録が残ってなければいけないわけで、学校では道徳が教科化される前に、道徳の研究をする中で、ワークシートを使った学年もあれば、ノートでやった学年もあるし、ワークシートも一から手づくりのものもあれば、教科書

の指導書と言われるものについているワークシートを少し手直ししながら作ったワークシートを使ったりと、いろいろやってみた。

・結果としては、学年によってワークシートのほうがいいという学年もあれば、ノートのほうがいいという学年もあった。別冊があることで子どもたちが同じ設問で書いていくという、評価のときにやりやすい例もあるが、設問にとらわれてしまうこともあり、それならば教師の側がある程度意図を持って、設問なり、質問をする中で、子どもたちの変容だとか心の中をあらわしてもらおうということが出来る、学年でノートにしようとか、ワークシートにしようという余地があるほうが自分はいいのかなと思う。今の教科書は別冊がないので、それぞれの工夫をしている。それぞれが工夫するというのが大事だと思っている。

○委員・家で保護者の人と一緒に読むということも、すごく大事だと思う。そうすると、この大きさや軽さなども一つ考慮していったほうがいいのではないかと思う。その反面、大きい教科書は、絵もいっぱい入っているし、見やすいということもある。

○委員・各者とも最初の部分に、道徳でどのように学習するのかについて書かれたページがあった。例えば東京書籍、教育出版、日本文教出版、光文書院では、全て4ページにある。短い言葉で気づく、考え、話し合う、まとめる、深める、生かすなどと流れが書いてあって、わかりやすいと感じた。

・特に光文書院では、ノートの書き方の例が示されているのがよい。光村図書出版では、どのように考えればよいかイラスト、短い言葉でわかりやすく示されていた。廣済堂あかつきでは、文章で道徳の時間の流れが説明されている。

○委員・それぞれの教科書にも各教材に合わせた問いかけや、児童への投げかけが書かれている。道徳では、価値理解を深めることと、あと、自分自身について内省することに主にポイントを置いて授業をすることが多いが、その視点から、各者の問いのところを見ていくと、教育出版や光村図書出版、光文書院は、問いだけでなく、キャラクターの吹き出しの中で、考えの道筋を示しているようなものもあるので、子どもたちにとって、より自分のこととして考えて、議論するという視点でヒントになると思った。

○委員・各者とも資料の提示の仕方などが工夫されていると思った。コラム、漫画、さまざまな方法で工夫されていて、学校図書や光村図書出版、光文書院などで大変工夫されていると思った。

・何より、道徳の研究を3年間学校でやった経験から、とにかく時間との戦いで、週に1時間しか道徳は授業がなくて、それを年間35時間はやるということで、その1時間、1時間でしっかりとクリアしていかないといけない。1時間の中で完結させるということはすごく重要である。

・そういった意味で、時間をどう確保するか。その時間の中で教材を見

て、そこから今日学んでもらいたい道徳的な価値、例えば公平とか公正とか正義だとか、そういった何かしら学んでもらいたいことを読み解き、自分ごととしてどう捉えるかということをしなければならない。自分自身で振り返らないと、人ごとで終わってしまうので、自分がどうだったかというところまで、学習をその1時間の中で完結させなければいけない。やってみると、時間との戦いになる。

・その意味で、そういった工夫をよくされているなというところが日本文教出版や光文書院の教科書だと思う。特に感心するのは、日本文教出版は、ノートをつけている3者のうちの1者だが、一つのパターンで通されている。このパターン化が非常に、子どもたちにはわかりやすく、前の時間にやったのと同じパターンでまたこれを書いていくということで、このノートの書き方に迷わずに、次の時間、次の時間に進んでいける。同じ書式で示されているところが結構、スッと取り組める。1時間の中でどう成立させるかということをよく考えてつくられたのではないかと思う。

・道徳の研究をやってみると、本当に1時間の時間をもっとあればなど思うときが多いので、そういうところに工夫された日本文教出版とか光文書院の教科書というのはそういう特徴があると思う。

○委員・年35時間でこのボリュームというのは、廣済堂あかつきは多いと個人的に思っていた。学研はフォントもちょうどよく、ボリュームもいい。光文書院もそう思った。学校図書はどちらかというと、読み物のほうが多い。ただ、付録の学びというのはよかった。教育出版でいえば、入り方はいいんだけど、何となくボリュームが多い。東京書籍はわかりやすく、ボリュームもちょうどいい。光村図書出版は、「学びの記録」という付録がいい。あと、日本文教出版は、ボリュームもちょうどいいし、付録のノートもいい。35時間で先生が大変にならないようなものが一番いいのではないか。

○委員・個人的には、道徳というのは、おのずと学んで、自分のものにしていくようなものだと思っている。ただ、逆にこれだけの量のものを先生方が教えてくれて、かつ、評価しなければいけないという仕事のつらさを、実感している。先生方が扱いやすく、説明しやすい、わかりやすいものがベストではないかと感じた。

○議長・ほかに意見はあるか。

《なし》

○議長・なければ「特別の教科 道徳」の検討を終了する。

・各者それぞれに特徴や、よさがあったかと思う。そのことについて報告をさせていただくがよろしいか。

(異議なし)

○議長・以上で検討を終了する。事務局に進行を戻す。

- 事務局・今回の検討結果、会議録については、市のホームページで公表させていただきます。
 - ・会議録と合わせて、教育委員に送る報告書を事務局でまとめさせていただきます。
 - ・情報公開の請求があった場合、検討委員会委員の指名を公開する。時期は、8月の教育委員会議で、7月の教育委員会議の議事録が確定する8月の下旬以降となる。御承知おきいただきたい。
 - ・最後に閉会の挨拶を副委員長より願います。
- 副委員長・挨拶
- 事務局・令和元年度第2回伊勢原市教科用図書採択検討委員会を閉会する。

午後4時30分 閉会